

プルサーマル延期へ 「やらせ」認め北海道電社長

北海道電力泊原発3号機（北海道泊村）のプルサーマル（軽水炉でのプルトニウム利用）計画をめぐる「やらせ」問題で、同社の第三者委員会（委員長・市川茂樹弁護士）が北電の組織的関与を認定したことを受け、佐藤佳孝社長は17日、札幌市の本社で記者会見しました。社長は2012年春に予定していたプルサーマルの導入を当面延期する考えを表明しました。

しんぶん赤旗が8月26日付でスクープしたやらせ問題が発覚してから、佐藤社長が公の場に現れたのは初めて。佐藤社長は第三者委の報告書を受け入れる考えを表明した上で、「多大なご迷惑をかけ、信頼を損なう結果となった。深くおわびする」と陳謝しました。

また社長は、経営責任を明確化するため、自身を含む経営陣4人を減給30%3カ月、2人を同20%3カ月とする処分も発表しました。

定検は、来年
8月まで延長

原電お知らせより

東海第二発電所、定期検査の状況について

地震により影響を受けた蒸気タービン動翼の補修
および交換と中間軸受台の点検修繕作業を実施

主要設備

①原子炉関連設備

燃料集合体全数764体を原子炉内から取り出し、使用済燃料プールにて冷却を継続中。また、炉内構造物等の点検を実施。

②タービン関連設備

高圧タービン、低圧タービン（A）（B）（C）、発電機、励磁機の開放点検および動翼等の補修を実施。

大名 東海第二は、この11月で運転開始33年です。設計上は、30年想定だったと聞いています。

点検状況

①高圧タービンの点検状況

外観点検の結果、擦れ痕は、擦れたことにより生じた表面のめくれやへこみを修正することで継続使用が可能であることから手入れを行う。

また、高圧タービン第4段目のノズル翼の一部が車室内に残留していることを確認。隔板の一部にこの影響と思われる軽微な打痕が見られるものの、動翼に影響を与えた形跡は見られていないことを確認。

なお、全てを回収できていないことから、未回収部分の捜索を進めるとともに、脱落した原因調査を継続して実施中。

②中間軸受台の点検状況

外観点検の結果、軸受台が上部方向に約5mmずれていること、および基礎ボルトの10本中3本に緩みがあることを確認。今後、中間軸受台基礎部の補修を実施。

③低圧タービンの点検状況

外観点検の結果、擦れ痕は、擦れたことにより生じた表面のめくれやへこみを手入れして修正。継続して使用する。低圧タービン（A）の9段から11段の動翼は、硬度測定の結果で擦れた際の熱による硬化が見られる部位が確認された。今後の運転に万全を期すため、予防保全として動翼を交換。

主蒸気逃し安全弁内部部品の脱落について

9月26日、主蒸気逃し安全弁分解点検で、主蒸気逃し安全弁（18個）のうち、D弁の内部部品（ローリングセットピン）が折損、脱落を確認。調査の結果、セットピンにより位置決めされていたローリングが正規の位置からずれ、弁体に接触したと思われる痕跡があることを確認。

今後は、主蒸気逃し安全弁のセットピンが、脱落した原因について、詳細に調査する。



18日の朝、懸命に咲いている我が家の朝顔



まもなくこんな季節？炬燵で今年1月10日 21時10分